

校友会報

日本大学工学部校友会



第75号

平成24年3月1日

INDEX



● ごあいさつ	2
● 平成23年度第54回通常総会報告	3
● 特集・東日本大震災	4
● 第31回「母校を訪ねる会」を開催	6
● 平成23年度「母校を訪ねる会」「同級会」	8
● クラブOB・OG会報告	12
● 支部活動報告	14
● 就職セミナー・母校を訪ねる会	18
● がんばり記・北桜祭	19
● 工学部NEWS	20
● 校友会NEWS・寄付者名簿	21
● 通常総会・母校を訪ねる会の案内	24

ごあいさつ

日本大学工学部長 出村 克宣



平成24年の早春を迎え、校友の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年3月11日に発生した東日本大震災により被災された方々には、日本大学工学部を代表して、心よりお見舞い申し上げます。又、地域のために、多くの校友が復旧・復興活動に従事されていることに、深甚なる敬意を表する次第です。

更に、昨年中は、日本大学、特に、工学部に対し、東日本大震災に伴う被害等について、多くの校友会の皆様方から様々なご支援・援助をいただきました。又、近年の社会事情に鑑み、学生の就職に関して、多くのご配慮、ご支援をいただいております。ここに記して、心から厚く御礼申し上げます。

震災後、工学部では、キャンパスの施設・設備の点検・整備を

行うと共に、建物内外の教育施設における空間放射線量の測定、上水道の水質検査並びに学生の日常生活を通しての積算放射線量の測定を継続して行い、教育・研究活動に支障のないことを確認しております。又、高圧水洗浄によるキャンパス内の建物壁面、舗装路面等の除染作業と、側溝の汚泥除去作業を行うと共に、主要な屋外施設の除染作業を行ってきました。

これらの作業はもちろんのこと、校友の皆様方からのご支援・援助もあり、学生諸君がはつらつとして勉学、課外活動などに取り組んでおります。

今、日本は被災地である東北地方を中心に、大変困難な状況におかれています。しかし、このような時だからこそ、工学部が掲げている「ロハスの工学」は、地域復興と社会の発展のために不可欠な教育・研究テーマであると考えております。今後とも、このテーマを探究すると共に、学生と教職員が一体となって、地元福島県や東北地方はもとより、我が国の発展のために何ができるかを考えながら行動してまいります。

今後とも工学部の教育・研究活動にご支援を賜りますようお願い申し上げますと共に、校友の皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

ごあいさつ

校友会会長 手塚 公敏



平成24年の早春を迎え、校友の皆様には、益々ご壮健のこととお慶び申し上げます。

また平素は、母校はもとより我が校友会に対しまして、限りなくご支援とご厚情をいただき、衷心より感謝申し上げます。

さて、歴史的な昨年は、3月11日に東日本大震災が発生し、これに伴う未曾有の大きな津波が沿岸部を襲うなどして、多くの尊い人命が奪われました。

さらに加えて、福島第一原子力発電所では、副次的に原子力発電事故が誘起されて、大量の放射性物質を噴散して、日本中を恐怖の渦に巻き込み、いまだ収束することなく続いている有様で、決して忘れることの出来ない年となりました。

この大震災により、被災された多くの方々に対しまして、心からお悔やみとお見舞いを申し上げるとともに、震災前の日常が一日でも早く戻ってきますよう祈念しているところであります。

工学部は、偶然にも前年に完了した耐震補強工事が効を奏し、幸いにも大きな被害はありませんでした。震災の動揺がようやく治まりだした5月6日に平成23年度の学部新年度をスタートさせました。大学関係者の労に対し感謝申し上げます。

校友会では、念願の「日本大学工学部校友会設立50周年記念誌」の頒布と校友会報の発送中の震災で、皆様には大変なご迷惑をお掛けいたしましたし申し訳ありませんでした。

被災直後の無力感と交通網を始めとするインフラの混乱、放射能への恐怖などから、平成23年度の校友会総会を危ぶむ声もありましたが、皆様のご支援をいただき、予定どおり4月23日無事母校工学部において平成23年度工学部校友会通常総会を開催することができました。

総会には、北は北海道から南は九州、四国までの支部の方々、また日本大学各学部の校友会の会長各位など、多数のご参加を賜りました。皆様には、工学部の現状をご披露申し上げ、安心してお帰りいただきました。

また、前年度の約束で当番校となった工学部校友会では、工学部のキャンパスで8月27日に、日本大学の工科系4学部の校友会(理工学部・生産工学部・薬学部・工学部)が連携する、工科系校友会連絡会と支部長会を開催いたしました。これも工学部の現状についてご理解をいただく良い機会となりました。

恒例の学部祭(北桜祭)は、震災に打ちひしがれた気持ちを高揚させるべく10月22日23日の2日に亘り盛大に開催されました。特に23日には主イベントである「母校を訪ねる会」が開かれおおよそ200名ほどの校友が来校されました。震災の被害を心配していた皆さんは、異口同音に工学部の現状に安心したと言っておられました。

昨年の会報に「日本大学校友会(本部校友会)正会員」登録のお願いを記載いたしましたところ、多くの方々のご賛同をいただき、他学部に比べても決して劣らない成果を挙げることができました。工学部校友会と致しましては誠に誇らしい限りであります。本当にありがとうございました。

すでにご承知のとおり、この登録は、母校日本大学を直接的に支援する貴重な方途でありますので、更にこの意義を高めるため支援の継続を希求して止みません。どうか本年度も昨年に引き続き登録して下さいませよう、ここに改めてお願い申し上げます。

この度の震災で、日本は多くのものを失いました。しかし、この大きな犠牲と引き換えにまた多くのことも学びました。大自然に対する畏敬の念、思いやり、絆など、知っていてもあまり語られることの無かったことが、心に刻みながら語るべき時が来ました。

わが校友会会員53000余名の皆様には、日本の将来を見つめ叡智を傾けて、この困難な世情を何とか明るくしていただきたいものと希う次第であります。

末筆ながら、皆様のご健勝とご発展をご祈念申し上げご挨拶といたします。



平成23年度第54回通常総会報告



平成23年4月23日(土)、平成23年度第54回通常総会が工学部70号館にて開催されました。3月11日に発生した東日本大震災の影響で電車等の交通機関が打撃を受けたこともあり、開催延期の案も出されましたが、4月上旬にはある程度回復し、また、この時期にこそ全国の校友に郡山の元気な姿を見てもらう必要があると判断し、当初の予定通りに開催する運びとなりました。

議事は承認事項、議案事項ともに賛成多数で可決されました。本年は役員改選の年であり、総会出席者と執行部案とで組織された選考委員会で審議した結果、手塚公敏会長の再選と新役員の選出が提案され承認されました。

総会後、来賓をお迎えして懇親会を開催しました。震災後の多忙な時期でありながら、全国各地から大多数の方々にご出席いただき、盛大な懇親会となりました。

○校友会功労者の表彰

本会の会務遂行ならびに発展に貢献した功労者6名に表彰状、記念品を贈呈しました。

表彰者 (敬称略・表彰順)

所属等	氏名	学科・回	表彰理由
北海道支部	三上 茂	機8	北海道支部長歴任
関東支部	児玉 憲明	土14	関東支部長歴任
東南海支部	袴田 明寿	土19	会の設立、運営に尽力
東海支部	下里 正美	土19	東海支部副事務長歴任
四国支部	北岡 保之	工14	四国支部長歴任
アカシア教育研究会	塚本 達夫	建17	会の設立、運営に尽力



平成22年度一般会計収支決算書

収入の部				単位:円
科目	予算額A	決算額B	比較増減(A-B)	付記
還付金収入				
本部校友会還付金収入	34,000,000	34,426,000	△ 426,000	
本部校友会正会員交付金	100,000	129,000	△ 29,000	
雑収入				
預金利息収入	30,000	16,676	13,324	
積立金取崩収入	0	0	0	
当年度収入合計	34,130,000	34,571,676	△ 441,676	
前年度繰り越支払資金	0	0	0	
前年度繰越金	315,403	315,403	0	
収入の部合計	34,445,403	34,887,079	△ 441,676	
支出の部				単位:円
科目	予算額A	決算額B	比較増減(A-B)	付記
学部への補助費				
陸上競技場雷警報機設置補助	0	0	0	
学生への補助費				
学生支援基金特別会計繰入支出金 (学内表彰・課外活動支援)	1,020,000	1,020,000	0	
行事関係補助費				
北桜祭協賛金	500,000	379,415	120,585	
入学式記念品	1,400,000	1,120,000	280,000	
卒業式記念品	1,500,000	1,500,000	0	
卒業記念パーティ補助金	300,000	0	300,000	震災で卒業記念パーティ中止
本部校友会が「つばき」振興特別委員会寄付	300,000	300,000	0	
事業関係支出金				
広報活動費(会報発行費)	4,300,000	1,943,430	2,356,570	
広報活動費(「つばき」運営費)	700,000	600,000	100,000	
校友情報管理費	200,000	233,436	△ 33,436	
母校を訪ねる会	1,000,000	1,026,497	△ 26,497	
就職支援運営費	1,000,000	920,000	80,000	
校友支援特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
冠講座開講特別会計繰入支出金	200,000	200,000	0	
校友会歴史資料収集編集特別会計繰入支出金	300,000	300,000	0	
工学部校友会50周年記念誌発刊特別会計繰入支出金	1,500,000	1,500,000	0	
工学部教職員連絡協議会	400,000	356,250	43,750	
功労者表彰	180,000	167,090	12,910	
運営費				
支部活動支援費	2,200,000	2,200,000	0	
負担分担費	200,000	200,000	0	
会費	500,000	470,000	30,000	
総会会議費	800,000	855,661	△ 55,661	
諸会議費	150,000	183,500	△ 33,500	
旅費交通費	3,800,000	3,867,690	△ 67,690	
維持管理費	50,000	64,500	△ 14,500	
慶弔費	1,260,000	1,057,250	202,750	
交際費	200,000	236,815	△ 36,815	忘年会校友会負担・学部懇親会二次会分含む
通信連絡費	560,000	572,210	△ 12,210	
図書印刷製本費	350,000	448,245	△ 98,245	
備品費	100,000	106,290	△ 6,290	
事務用品費・消耗品費	270,000	357,525	△ 87,525	
賃借料	187,740	187,740	0	
手数料	20,000	14,690	5,310	
支払い手数料	40,000	33,705	6,295	
福利厚生費	50,000	38,500	11,500	
給与手当	6,500,000	6,614,652	△ 114,652	
法定福利費	900,000	925,266	△ 25,266	
雑費	50,000	21,692	28,308	
職員退職給付と積立特別会計繰入支出	100,000	100,000	0	
奨学等基金への繰入支出				
就学支援特別会計繰入支出	1,000,000	1,000,000	0	
予備費	157,663	43,698	113,965	
当年度支出合計	34,445,403	31,365,747	3,079,656	
次年度繰越支払資金	0	2,500,706	△ 2,500,706	
次年度繰越金	0	1,020,626	△ 1,020,626	
支出の部合計	34,445,403	34,887,079	△ 441,676	

比較増減欄△の科目費用は予備費並びに予算残のある科目より流用した

工学部 学部長 永嶋 誠一



マグニチュード9の地震が工学部キャンパスを襲ったのは、忘れない平成23年3月11日午後2時46分頃でした。なかなか止まらない揺れに呆然としながら皆がじっと耐えていました。その後、大きな余震が断続的に続き、これは尋常ではないと悟りました。幸いにも、停電にはならなかったのでテレビを見ると、東日本一帯の海岸線で大きな津波が発生し、大惨事になっていることを知りました。地震直後、恥ずかしいのですが、津波のことは頭に浮かびませんでした。そして、3月12日と14日に東京電力福島第一原子力発電所の原子炉建屋で爆発が起こり、恐れていた放射能が大量に漏れ出し、その影響が今日まで続いています。大震災のときの工学部とその後について、その一端を報告させて頂きます。



地震により被害を受けた50周年記念館(ハットN E)

震災発生から授業開始まで

工学部の古い建物は、図書館を除いて耐震補強工事が震災前に全て完了していたこともあり、校舎の倒壊や大きな破損は免れました。しかし、北桜祭の「母校を訪ねる会」などで使用している50周年記念館(通称ハットNE)のみ、屋根の一部がずれてしまいました。また、多くの学生が春休みに帰省していたので、クラス担任を通じて安否確認を急ぎ行いました。幸いにも、地震や津波等による学生の死亡事故はありませんでした。しかし、実験室や研究室の現状復帰に多少の時間を要すること、また、交通機関等が麻痺しているなどの関係で、当初の予定より1ヶ月遅れの5月6日に工学部・工学研究科の開講式を行い、授業を開始しました。特に空間放射線量は学生の屋外での学



建物の除染

習活動に影響するので、生命応用化学科の平山和雄教授と研究室の学生さんの協力により学内の空間放射線量を毎日詳しく調べ、データを基に授業を行ってきました。空間放射線量はホームページで毎日公開してきました。父母からは、「講義室の値が平常値に近いので安心した」などのメールも頂きました。また、6月から7月にかけて高圧洗浄機を用いた除染作業を校内で実施し、教育環境改善にも取り組んできました。現在のキャンパス内での学生さんの暮らしぶりは、震災前と同じ状態まで回復しております。

広がる援助の輪に感謝

震災後、多くの方々から様々な援助を頂きました。5月にはタイ王国より留学生に対して飲料水や災害対策生活用品が、7月には福原高一氏から防災備蓄用飲料水3,000本(1ガロン入りペットボトル)が寄贈されました。また、東芝(株)や三菱商事(株)からは奨学基金が寄せられ、36名の被災学生が奨学生になっております。さらに、工学部を除く日本大学本部・他学部等からの資金援助により、22年度卒業生・在学生・入学予定者への学費免除の特別措置も実現しております。学費の免除額は被災状況により異なりますが、震災被害による全額免除者は90名(内卒業生30名には返金)、半額免除者は201名、原発事故での免除者は28名、24年度入学予定の免除者は現在36名です。さらにまた、本部校友会を通じて多額の義援金が複数回寄せられております。紙面をお借りして厚くお礼申し上げます。

震災復旧・復興に向けて

震災後、多くの被災者が郡山市内に避難されてきました。そこで、本学の学生や教職員のボランティア活動が円滑に行えるように、ニチダイ・サステナブル・プラットフォームを学内に立ち上げ、様々なプロジェクトを支援してきました。例えば、避難所の仮設間仕切りで住環境改善に取り組んだのは建築学科の学生有志と市岡綾子専任講師、放射能の関係で運動が屋外でできない団体等に対して体育館やグラウンドを開放し、競技ボランティアで協



避難所における間仕切設置ボランティア

力したのは陸上部の学生さんと相場順一顧問でした。

また、4月には被災者の心の支えにと満開の桜を開放したり、機械工学科の学生さんと大学院生が中心となってひまわりを学内に植栽したりしました。さらに、7月には被災した市内の県立高校の教室の一部として、8月には第35回全国高等学校総合文化祭(ふくしま総文)の自然科学部門の会場として工学部の施設等を使用して頂きました。工学部の教員も審査員として参加し、全国の理科好きな高校生に元気な工学部をPRできました。

他方、震災の学術的な研究活動は土木工学科の教員と学生が中心に行いました。地震については中村晋教授、仙頭紀明准教授、梅村順専任講師等が地盤学会の調査団として被害調査を、津波については長林久夫教授等が福島県南部から茨城県境までの被害調査を、新幹線、高速道路、一般道などのコンクリート構造物や鋼構造物の被害調査は岩城一郎教授等が学会調査団の一員としてあたられました。

また、震災で工学部が掲げる「ロハスの工学」への関心が高まりました。昨年10月に工学部で開催された東北工学教育協会第59回年次大会では、機械工学科の加藤康司教授による「ロハスの家」の特別講演と「ロハスの家3号」の見学会、11月の第12回産官学フォーラム「ロハスの工学による持続可能な地域社会とコミュニティ形成」では、土木工学科の中村晋教授と建築学科の浦部准教授らが基調講演をし、「ロハスの工学」の有効性を広くPRされました。特に、浦部准教授はパッシブデザインコンペで大賞を得た「ロハスの家」のコンセプトを基に仮設住宅を設計

し、本宮市内に建てられた仮設住宅で実証実験を継続しております。さらに、公開シンポジウム「郡山から大震災と原発災害の今後を考える」では、建築学科のバリーク・サンジェイ准教授が放射能で汚染された表土について

の報告もしております。今後も研究機関としての工学部を社会に発信していきたいと考えております。

終わりに

震災後の混乱の中、去年は工学部の特徴を生かした震災の復旧・復興に向けた取り組みを学生さんと共にしてきました。今年はガンマ線を測定するゲルマニウム半導体検出器も納入されます。この装置を用いた実践的な教育と研究も推進したいと計画しております。東日本大震災の復興にはこれから何年も要すると思われませんが、教育研究機関としての役割、すなわち、震災にも対応できるエンジニアの人材育成を着実に遂行しつつ、工学部校友の皆様の力をお借りして未知なる領域に果敢に挑戦していく所存です。何とぞ宜しくお願い申し上げます。



ロハスの家3号

特集

郡山キャンパスの放射線状況

工学部 学生担当
平山 和雄



平成23年3月11日の東日本大震災とそれにとまなう福島第一原子力発電所事故による放射能汚染では、校友の皆様大変な心配をおかけしました。現在の郡山キャンパスにおける放射線の状況を報告いたします。

4月7日からグラウンドも含めたキャンパス内8ヶ所の空間放射線量を測定し、ホームページで公開しています。7、8月には建物、通路等の高圧洗浄による除染を行い、初期には毎時1マイクロシーベルト($\mu\text{Sv/h}$)程度あった空間放射線量(高さ1m)が現在では0.2~0.4 $\mu\text{Sv/h}$ まで低下しています。これは、半減期2年のセシウム-134と同8日のヨウ素131の減少とキャンパス内の除染の効果によるものです。新年1月からは、野球場、サッカー場、陸上競技場、テニスコートの本格的な除染を開始しました。これにより、放射線量を大幅に低下させて、より一層安心して安全なクラブ活動が可能になります。

健康への影響は、放射性物質の濃度と放射線量によって大きく変化します。そこで、受けた放射線の体への影響の度合いを測る基準であるシーベルト(Sv)と放射性物質が放射線をだす能力を表すベクレル(Bq)による基準を国では設けています。在学生による放射線モニターにおいても、国の年間放射線被曝量

の基準値である1ミリSvを下回っていますので、放射線の外部被曝による健康への影響はないものと考えられます。

ところで、地球上には様々な放射性物質と放射線が存在しています。代表的なものに、大気中のラドン-222、生物体中の炭素-14やカリウム-40があります。人類をはじめとした生物体はDNAなどが損傷してもこれを修復する機能があり、放射線に対して耐久性や免疫機能を備えてきました。また、特定の臓器に蓄積する放射性同位体に対して、蓄積を阻止するライバル原子が存在することが知られています。セシウム-134とセシウム-137は筋肉や臓器に蓄積しますが、天然に93%存在する安定同位体のカリウム-39がライバル原子になって蓄積を防止します。カリウムはリンゴや野菜に多く含まれていますので、普段からバランスの良い食生活を送ってライバル原子を摂取していれば、放射性物質は体外に排出されやすくなりますので、健康への影響は少なくなるものと考えられます。

水や食品などによる内部被曝については、ベクレルによる基準が設けられています。例えば、セシウムについて、水は10 Bq/kg以下、米は100 Bq/kg以下などです。ヨウ素-131は半減期が8日ですので、現在は検出されません。

食の安全を保障するために、放射性物質の濃度を測定できる簡易型と精密型の2台の装置を導入して、水道水と学生食堂の食材の放射線濃度を調べています。その結果、放射性物質の濃度は検出下限以下であり、国の基準値をクリアしています。今後も継続して測定し、水、食材についての情報を公開するとともに、より一層安心できる環境をつくっていききたいと考えています。



第31回「母校を訪ねる会」を開催



平成23年10月23日(日)、第31回目の母校を訪ねる会が開催されました。今回は 3月11日に発生した東日本大震災、またその後の風評被害の影響などもあり、参加者の減少が懸念されましたが、それも杞憂に終わり、ほぼ例年通りのご参加をいただきました。

62号館1階の食堂を利用して行われた懇親会も、例年同様の盛り上がりを見せ、ご参加の皆様は何十年振りか



第31回 母校を訪ねる会(第9回・昭和35年度卒) 平成23年10月23日



第31回 母校を訪ねる会(第19回・昭和45年度卒) 平成23年10月23日

の旧友や恩師との再会を喜ばれておりました。また、今回も恒例の茶会を開催させていただき、たくさんの校友の皆様にお茶を振る舞うことができました。当日は北桜祭も開催されており、祭を盛り上げる学生の元気な姿もご覧いただけたかと思います。

福島を取り巻く環境が未だ好転していないなかで、たくさんのご参加をいただいたことを大変喜ばしく思っております。参加者の皆様も元気な工学部の姿をご覧になって、少しでも安心していただけたならば幸いです。

次回もたくさんの皆様のご参加をお待ち申し上げます。



第31回 母校を訪ねる会(第29回・昭和55年度卒) 平成23年10月23日



第31回 母校を訪ねる会(第39回・平成2年度卒、第49回・平成12年度卒) 平成23年10月23日



「母校を訪ねる会」に出席して思うこと

機械9回卒 奈良 俊勝

昭和36年3月と言えば、今から半世紀も昔の出来事になりますが、私ども機械工学科9回卒の同期生は、当時まだ第二工学部と言われていた母校を巣立った年でした。あれからもう50年、この度、第31回「母校を訪ねる会」に出席する機会を頂きましたが、今迄にもその機会を借りて、幾度かの母校訪問を重ねて参りました。そして、懐かしい旧友達ともお逢い出来たのは、「母校を訪ねる会」を企画し実行して頂いている工学部校友会のご尽力の賜物であり、且つ、毎年継続的に実施されている事に対して深く敬意を表し、心から感謝を申し上げます。

当時のキャンパスは、広々とした農地に囲まれている中に木造の校舎が点在し、鉄筋造りの校舎は僅か一棟だけだったと記憶しております。現在の学生諸君には到底想像だに出来ない事象であろうし、私どもから見れば、今の学生達は本当に羨ましい限りの一言に尽きるものです。当時、通学する途中で、麦畑や田んぼの中を散策したりした記憶は未だに残っていますが、今ではすっかり住宅街に変わってしまった感がある中で、変わっていないのは、アカシヤの木と桜並木が昔の名残を留めていて、気持ちが癒されたことでした。

10年毎に訪れている「母校を訪ねる会」で思うことは、母校・工学部は自然環境にも恵まれて、回を重ねて訪問する毎に発展・変貌している様子を実感出来るのは誠に嬉しい限りです。しかし、これは外見的事柄が多々あり、内面的な進歩・発展が伴うものでなければ意味はなく、在学生諸君の大いなる奮起と努力を期待するものです。

私ども機械工学科9回生は、卒業後から今迄に計7回の同期会を開催して参りました。前回、平成13年の「母校を訪ねる会」からこの直近10年間に、2回の開催を致しましたが、丁度今から3年前の同期会は多くの同期生が古稀に巡り会った年にあたり、それを祈念してのことではありましたが、何れも20数名が出席されました。今年は卒業後50年目という節目の年を迎えて、同期会も母校の地・郡山での開催となりましたので、遠く広島や大阪からも参集し27名の出席でありました。この数字は、今回各学科の中では最多の数字であったと全員で喜び合ったところです。

私どもは既に70歳を当に越えた年齢に達しているにも関わらず、心を一つにして集い会えるのは、やはり青

春時代の一時期を共に過ごしたという一点に他ありません。そして更に付け加えれば、集まった方々は幸いにして現在、健康に恵まれていることも大きな要因であり、これからも健康問題は最重要課題となりますが、年齢を重ねる程に郷愁を覚える様に、学生時代が懐かしく、旧友達との語らいを求めて集うのだと思います。

今回の同期会も当時の寮や下宿生活のことは勿論のこと、現役時代の仕事のこと、健康のこと、家族のこと、政治や経済のこと、そして現在起きている東日本大震災や原発事故問題のこと等々話題に尽きることはありませんでした。



次回の「母校を訪ねる会」になりますと、私どもにとっては、80歳を越えてのことになりますが、これを次なる大きな目標に掲げることを誓い合って散会致しました。

これまで同期会の幹事は、5人から成る複数幹事体制で運営して参りましたが、これが長期間にわたり、同期会の開催が継続出来てきた要因の一つであり、今後ともこの複数合議体制は大切に行きたいと考えております。今後は、これまでの「機械工学科第9回生同期会」として活動していた名称を、決意を込めて、「九機有志の会」と一新し、当面は2~3年に一度の会合を計画しながら、更に10年後の「母校を訪ねる会」に繋げて行きたいと考えているところです。

一人でも多くの同期生が「母校を訪ねる会」に参加出来ます様に、「健康第一」を互いの最大努力目標に掲げて邁進して行く所存であります。

第19回土木工学科卒業生の40年目の全員集合

土木19回卒 長林 久夫

何とか、卒業40年目の同級会を開催することができました。校友会に御世話になって8割の同級生に連絡することができ、当日35名の懐かしい顔が続々と郡山に集合。

卒業当時は250名を超える同級生がおり、学生時代に

は話を交わさなかった仲間も10年目、20年目、30年目、40年目と同級会を重ねるにつれて親しみの度合いを増しています。10年目は仕事が忙しく、20年目は40名を超える多くの仲間が集合した。30年目は約30名で、40年目は35名の参加となりました。還暦記念の会にも約37名の参加を得ることができ、思えばこの卒業年は何かにつけて郡山に集っています。多感な青春時代を親元を離れて多くの仲間と楽しく過ごせたことが、郡山を第2の故郷にする何よりも強い要因です。



福島県は昨年の2011年3月11日に東日本大震災と同時に東京電力の第1原子力発電所の事故により未曾有の災害をこうむっています。しかし、大学の被害は比較的少なく、放射線量も年間1mSv程度で過ごせる状況で、不幸中の幸いと言わなければなりません。学生の安全も確保でき、1ヶ月遅れて5月6日に授業を再開することができました。このような状況にも関わらず母校を訪ねる会を開催できたことは大学や郡山をアピールする良い機会となりました。友人の中には同級会の出席をためらうものもいましたが、参加した旧友の多くは何よりも郡山や大学のことを心配しており、現状を目の当たりにして一様に安堵していました。

いま同級生の多くは第一線を退き、第二の人生を送っています。しかし、皆、驚くほど元気で今でも多くが現役として活躍しており、あらためて技術屋の良さを感じております。

参加者は遅くまで郡山の夜を楽しみ、二日酔いを押して翌日の母校を訪ねる会に参加しました。大きく変貌した母校の様子や北桜祭、下宿を訪問するなど郡山滞在を充分に楽しんで、再会を期して母校を後にしました。末尾ながら母校を訪ねる会を開催していただいた校友会と日本大学工学部に深く感謝いたします。

「母校を訪ねる会」に参加して

建築19回卒 桑名 和雄

第19回卒業生として日本大学工学部を訪れ、何か20代に戻ったような気がしました。というのも周りの学

祭の様子を見ていると若い学生達が、屋台の売子に徹して真剣な表情で商売をしていました。当時を思い出し、もう卒業して40年近く過ぎたのかと改めて感慨深く思いました。

私達の学生時代の1年間位は、学生運動・学内占拠という事で授業を受ける事なく、又、学外で授業を受け、あっという間に3年間で過ぎ卒業という慌ただしい学生時代を送った事だけが思い出されます。

社会の一員となってからは先輩・上司から様々な事を学び、一度注意された事は決して二度と注意されないようにと心に誓い、一日一日を精一杯生活しました。その間に現場出張で1年、2年間と大阪・鳥取に行った際、日大の先輩を訪ねて市役所・県庁等の建設関係の申請手続きの方法などを教えてもらい大変感謝しています。日大の卒業生は、どこに行っても誰かはいて相談に乗って頂きました。日大の卒業生として誇りに思っています。自分も後輩が訪ねてきたら同様にしたいと思いました。



私達、19回生は昭和22、23年生まれの方が多いと思いますが、終戦後の食料のない時代、アメリカの駐留軍の車列からチョコレートを買って、母から毒が入っているから食べては駄目だと叱られた思い、日本有史以来の繁栄とバブルという大変な時代を過ごし、やっと落ち着いたと思ったら昨年3月11日の東日本大震災という地震を体験し、我が福島県に於いては原発事故という事がありました。私達第19回卒業生は負けません。日本人は苦しい事があっても一步一步大地を踏みしめていく人間です。あの敗戦という時代から我々日本人の先達者は菌を食いしばって頑張ってきました。だから、私達も子供・孫達に立派な日本人になってくれる様に指導・模範になりたいと思います。第19回生の人達に会い40年間の人生の重みと楽しさを過ごした顔に会えて大変嬉しく思いました。

尚、10年後の福島県郡山市の日大工学部の周辺の環境も大変良くなっていると思いますので、10年後の母

校を訪ねる会には、多くの懐かしい顔が見られる様に祈願し、忙しい人生の中で立ち止まって人生を振り返る機会を与えていただいた日大工学部の関係各位には感謝致します。

三十年が経ちました

土木29回卒 小野 信太郎

はじめに、東日本大震災にて被害に遭われました方々に対しまして衷心よりお見舞いを申し上げます。また、工学部校友会会員の方々や関係方面からの援助や激励等に対しまして、書面をお借りいたしまして御礼申し上げます。

さて「もう10年経ったの、早いね…」というのが今回の同級会の出欠に付け加わった返事です。確かに10年前の平成13年にも私が幹事で同級会を開催しました。卒業してから数えると、もう30年も経っているのです。

今回の同級会は「北桜祭」の初日でもある10月22日(土)夕刻に郡山駅前アーケード内で開催し、中には30年ぶりに会う仲間もおりますが、直ぐに昔話に花が咲き、当時にタイムスリップした感もあります。しかしながら頭の頂上や腹の周りを眺めると、月日の流れは正直でありました。

また、工学部内の変貌について、前回はハットNE(平成11年竣工)が出来たばかりだったけど、今回は70号館(平成18年竣工)が出来上がりビックリしていました。毎日通っている私にとっては、当たり前の風景となっていますが、10年を経て学内を見回すと変貌は著しいようで早速70号館9階からの眺望を楽しんだようです。

この席で今度集まるのは「還暦」に当たる2018年に1泊の予定で、幹事は私ということが決まり、放射能を吹き飛ばしながら郡山の長い夜を楽しく過ごしました。



母校を訪ねる会に参加して

土木29回卒 矢野 英昭

卒業30年目の母校を訪ねる会を明日に控えての同級生との再会は、人数的に少々寂しいものでしたが、同級会は前夜にこじんまりとアーケード街の中華料理店で厳かに行われたのでした。その一コマを再現すると…「20年目の再会では3倍くらい集まったものの、今夜はどうも出席率が悪いのではないかな。ほとんどが管理職や経営責任者となっている時期だろうから、多忙を極めているのであろうが、10年毎の再会がわかっているのであれば、万障繰り合わせても馳せ参ずるべき集いではないのか。東日本大震災によって放射能汚染が懸念されている福島県への参集で躊躇せざるを得なかったのか、しかし、それ以上に母校の状況がどのようになっているのか心配のほうではないのか。キャンパスの耐震補強は大丈夫だったのか。仮に汚染が進んでも、『母校のためなら命までも…』というのが体育会育ちの猛者であれば当然だったはずではないのか。卒業研究した海岸線はどのように変化したのか。下水処理場の復旧は循環式活性汚泥法によるべきだ。猪苗代湖の汚染は如何に。橋梁や道路の早期復旧工法に本学の技術支援が不可欠だ。除染技術に総合大学としての総力が結集できるのでは。震災復興こそロハスの技術提供が求められているのではetc.」…と当時の所属クラブや卒業研究を思い出し杯を交わし、飲むほどに、酔うほどに学生時代に戻って気炎を上げる土木工学科の若き？エンジニア達でした。お互いに震災当日の行動を思い出し、復旧や支援活動について熱く語り合い、困ったらいつでも応援するとの暖かい30年目の絆を確認しあった夜でした。

翌日は母校を訪ねる会でした。あいにく天候が崩れ写真撮影は新しい教室棟の70号館の中での撮影となり、我々が現役学生時代にキャンパスにやって来た古田会頭の銅像とは今回は一緒に写ることができませんでした。記念撮影を待つ間、同窓会館で昔懐かしい写真や実験器具等の各種展示品を見たり、現役学生の展示品を見て回りました。私達の学生時代と異なり、研究作品や各クラブの活動報告がかなり少なく、クレープや焼きそば等の食べ物屋が多かったのには寂しさを感じました。そもそも当時の学部祭は文化祭であって、もっとアカデミックで展示品もダイナミックなものが多く、各クラブが活動状況をアピールすることに互いに張り合っていたように感じました。研究成果や調査報告書・遠征合宿の活動報告・リンゴのタタキ売り・コンサート・ボクシング大会・ダンスパーティー・ファイア

ーストーム等、熱く盛り上がった学生時代の楽しい思い出だったことを、今回参加した同級生と語り合いました。現役学生には中学生の文化祭とは異なったもっと大学生らしいグレードの展示企画とB級グルメに競り勝てる味の提供をと中年親父達は苦言を呈していたのでした。

懇親会に先立ち、郡山の御菓子と抹茶が振る舞われ、おいしくいただきながら、参加できなかった方々のメッセージが掲示されていたため拝読しました。参加できなかった方々それぞれに都合があったのでしょう。母校を思う気持ちがそれらのメッセージに託されていたようです。その後、懇親会となり昨日の同級会に出席できず、当日参加された同級生や10歳年上の諸先輩方を交え懇談できました。10歳・20歳若き後輩の各学科の参加者が極端に少なかったことは残念でした。学部長や校友会会長様からの母校の近況説明を伺い、益々の工学部の教育環境の充実状況について伺うことができました。新年早々の箱根駅伝へ本学が出場できないことを伺い、残念に思いました。風評により工学部への受験生が減少するのではないかと憂慮されていることを伺い、原発問題について改めて考えさせられるとともに、一刻も早い収束を祈念せずにはいられませんでした。本学の総合大学としての英知と人材を結集して問題解決していただきたいものです。最後に応援団OBの深野様から最近の応援団の御紹介と活動状況を伺い、懐かしい応援団のエールのもと校歌斉唱となりました。

新しい建物が次々に建ち、桜並木とアカシヤがさらに大きく枝を張り、地震の影響もほとんどなく、益々キャンパスは拡充していました。恵まれた環境と施設の中で工学部のさらなる躍進と地域貢献を望みつつ10年後の再会を誓いあって散会したのでした。

平成23年度「母校を訪ねる会」に参加して

電気39回卒 挽野 喜美

昨年は3月に東日本大震災があり、様々な催しや祭り等、自粛された中で、北桜祭が例年と同時期に行われたことは、やはり在校生の皆さんや校友会の方々そして卒業生方のご尽力のおかげだと思いきり感謝です。

日大工学部がある福島県郡山市でも地震による被害はもちろんのこと9月の台風洪水被害があったとうかがいました。39回卒の私達は、年代的に仕事や家庭等で皆忙しく過ごしている時期です。



その中でも全国各地から十数名の同窓生が集まりました。

おおよそ20年前に食べていた学食メニューの話やそれぞれ所属していた研究室の話や教わった先生方の話がでて、とても懐かしく当時のことを思い出しました。私は今、地元郡山市に在住しております。よく日大工学部のわきに連なる堀の横の道路は車で通ったりしますが、実際に門から中へ入ることは本当に久しぶりでした。新しい建物が何棟も出来ていたのは、外から見えていて知っていましたが、私達が在学中に出入りしていた建物はほとんど変わらない様子で、今も研究室として使われているのには少しびっくりしました。

卒業して社会人になり年月が何年もたって実感することは、日本大学が人数の多い特徴の学校で、様々な所に先輩方も後輩たちもいるということです。それだけたくさんの仲間がいることは心強いです。

最近、身の回りは暗いニュースが多い中で、久しぶりに母校を訪れてみて、がんばっている在校生の姿や全国各地から集まった先輩や後輩の元気な姿が見られて明るいパワーをもらいました。今回来られなかった卒業生、同窓生の方も、次回はより多くの方が来られることを願っております。





土木工学科第5回卒業生同級会開催報告

土木5回卒 大浦 弘夫

平成23年10月4日(火)～5日(水)、福島県二本松市あたたら高原岳温泉湯日の郷あづま館に於いて久しぶりの同級会を開催いたしました。

先ず最初に東日本大震災並びに福島原発事故の影響を受けられました皆さん方に心からお見舞いを申し上げました。

今日この同級会に公私共に御多用のなか、大変元気で、福島県内5名、千葉県内4名、宮城県内1名、合計10名の御参加を頂きました。私達は何時の間にか卒業以来もう55年経ちました。即ち喜寿77才を迎えた訳です。そこでお互いに増えたのは白髪と皺そしてパーソナリティつまり人間の魅力と思ひやり、減ったのは記憶力と行動力そして視力でしょうか。兎に角みんな健やかで再会できました事、心は学生時代のカプセルの中に戻った思いでした。



お酒を酌み交わしながら学生時代のクラブ活動や質屋通い等の思い出、若きエンジニア時代の艱難辛苦、予算獲得対策、霞ヶ関対策、地域住民対策、事業獲得対策、営業活動等、精励恪勤しても画脂鏤氷に帰した喜怒哀楽の経験談にみんな77年の重厚さがあり、緊々と我が身に沁み入るものがありました。

途中、宴酣でありましたが日本大学工学部並びに校友会の限らない発展と同級生の益々の御健勝を祈念して中締めをしました。各自の思い出話は尽きる事なく深夜まで弾みました。何時しか話は病院からお寺へと変わっていきました。「その話はもう止めよう」との誰かの声に一同大笑い。時計はもう24時を廻り、床に就きました。

翌日はバイキング朝食、解散は午前10時。ゆっくり食事を共にしながら昨日の延長話に花を咲かせました。

次回の同級会は今年の秋、安達太良カントリークラ

ブに於けるゴルフコンペを兼ねて、当館で開催することに決定、再会を確認の上、夫々自家用車、送迎バスで別れを惜しみました。

むすびに、此の同級会の実現に何かと御尽力を賜りました幹事の佐藤司先生に深く感謝を申し上げ報告に代えさせていただきます。



今年度OB OG会総会は中止、有志が北桜祭の演奏会を支援に出掛ける

OBOG会広報担当運営委員 電気12回卒 桃井 忠男

「樂都・郡山」を掲げ文化振興に力を注ぐ郡山市では、東日本大震災の影響を受けて、その拠点となる多くの施設が、閉鎖されていた。そんな中、工学部では、関係者の努力と協力で順調に復興し、工学部の授業も立て直され、北桜祭も10月22日(土)、23日(日)に開催が決まった。

管弦楽部は昨年、創部50周年記念行事を開催する予定で準備を進めていたが、ご承知の通り東日本大震災に遭遇し影響を受けたので延期になり、OBOG会総会も中止とした。部員達は、昨年の北桜祭の演奏会では、自分自身の励ましと仲間を励ます思いを込めて臨み、数年前に指揮をとられた野口徹雄氏が「君たちの思いの具現を手伝いたい」と言って支援を買って出てくれた。そのご好意と現役達の頑張り具合を知ったOBOGも駆けつけ、合同練習も行われた。現役17人にOBも加わった27人が、素晴らしいハーモニーを6曲奏でた。5つのパートは、指揮者の踊るような仕草に無心で6曲を奏でた。ハーモニーは一条乱れず、聴衆の心を釘付けにし、感動を与えてくれた。



最終日の演奏会が終了すると、激励に出掛けた千秋会長は飛び跳ねるようにしてステージに駆け寄り、指揮者とコンマスと握手を交わし、演奏者に拍手を送り、これまでの労をねぎらった。午後2時半からは、現役代表と居合わせたOBOG仲間が参加し懇親会も開かれ、会長は、「OBOG会の現状」と「音楽の趣味は老後生活を

豊かにしてくれる」効用を紹介した。現役代表からは「毎年、入部募集を行っているが、入る年も無い年もあり、一時は部員が4名になった時もあったが、その4名の踏ん張りの時代を経て、今年は東日本大震災の後にもかかわらず、3名の入部があり、現有は17名に至った」紹介や「50周年記念行事の取り組みを新執行部で改めて検討する」旨の説明があった。

23日の福島民報新聞の「日曜論壇」には、工学部長・出村克宣先生が、震災で気がついた《非常時の情報伝達手段の工夫》として「音や電波の届かない環境では、ニオイの活用も検討の余地がある…」と述べられていた。被災体験者は、いろいろ苦難を乗り越え、貴重な体験をされたことと思う。そんな体験と工夫を紹介しあう場として、次回の北桜祭時には、もっと沢山のOBOG会仲間が参加し、現役の素晴らしい演奏を楽しみながら、「被災体験と防災技術」などの交流の場にしてはどうだろう。

3年後にまた会おう

工化16回卒 上野一吉

平成20年、母校を訪ねる会(卒後40年)の時に郡山で同期会を開催し22名の参加があり楽しい一時を過ごしました。宴会の最後に同期会サイクルを3年と決議し、今回の開催に至った次第です。

11月7日那須高原、ホテルエピナール那須での開催を決め9月吉日に幹事事務局より案内書を35名に発送(同期生50名での卒業でしたが44年の間に転職、転居で連絡不能となった人13名、亡くなった人2名でしたが今回新たに1名死亡の返信があり3名となる。)一般的に考えると3年周期の同期会はスパンが短い様に思われ、マンネリ防止の意味で、今回は夫婦同伴歓迎の一行を加えてみました。結果参加20名中5組の同伴参加があり、25名で開かれることとなりました。当日は生憎の雨模様、午後3時30分チェックインまでに17名プラス御婦人5名が到着、岡山、石川から飛行機、新幹線を乗り継いで来てくれた人、宇都宮で前夜祭、翌日紅葉の日光を堪能後悠々とホテル入りしたグループ等さまざま。部屋割りもスムーズに決まり、まずは風呂へ。幹事部屋は湯上がりのビールを飲みながら宴会を待つ人で満員。

不思議なもので会った瞬間に40数年前のあの頃に帰れる同期生特有のつながり、我が日本大学の校友会誌の表題でもあるKiZUNA(絆)を強く感じた次第です。

仕事で遅れた2名を加え(1名は当日不幸があり欠席)19名+奥方5名の24名で開宴、ゲーム・カラオケで盛り

上がり延長を追加しても話は尽きず、幹事部屋を二次会場とし夜遅くまで交流は続きました。



次回同期会は3年後。幹事も今回と同一メンバーで、平均年齢70歳「古希を祝う会」とすることとなりました。

工業化学科は人数が少なくとり易い同期会ですが、今回の参加率56%(参加19/連絡可能な人34名)次回は少しでもこの数値を上回ることを目標にしたいと思います。

日本大学燃料研究室(柳沼研)OBG会

工化24回卒 石上 次郎

第6回日大燃研OBG会を平成23年10月22日・23日の両日、第61回北桜祭に合わせ開催いたしました。今年は、東日本大震災もあり開催が危ぶまれておりましたが、被災地福島への応援も兼ねまして、まずは、22日早朝より曇り空の中、福島石川カントリークラブにて6組23名で旧交を温めプレーいたしました。終了後、福島空港近くの石川郡石川町にあります、田畑温泉八幡屋にて総会を行いました。柳沼先生ご夫婦臨席のもと恩師・先輩・同窓・後輩など、総勢44名参加で、第48期生より順に演壇に上がり22期生さらに特別会員またその家族まで自己紹介から始まり燃研での研究成果や柳沼先生との思い出話など報告させていただきました。



さらにアトラクションとして中東の妖艶な踊りベリーダンスなど見学させていただき終始大変和やかな雰囲気で盛り上がり、最後に校歌を斉唱し3年後の再会を約束して一次会を終えました。二次会では、カ

ラオケの順番が回らないほど盛況で時間の経つのも忘れ酒を酌み交わし、たがいの近況報告など名残惜しうに最後の一時を過ごしておりました。

翌日は、二日酔いの中、有志によります北桜祭見学が予定され、見る度に近代化が計られるわが母校に感嘆いたしました。

柳沼先生は御歳73歳。まだまだ元気で演壇にも飛跳

ねて昇り降りされておりましたが、本人曰く、少なくとも100歳までは社会活動に現役で行くそうです。この柳沼研のOBG会も、まだまだ続けてまいります。一般会員が先に老いそうです。

最後に御尽力いただきました会長様・事務局の方に厚く御礼申し上げますと共に参加されました皆様の益々のご健勝を祈願いたします。



支部活動報告



北海道支部活動報告

建築25回卒 北海道支部長 横関 一伸

本年度支部総会は8月19日(金)、札幌全日空ホテルにて第62回日本大学工科系校友会北海道支部桜工会と第38回日本大学工学部校友会北海道支部総会及び懇親会とを合同で開催しました。参加者は70余名で、日本大学工科系校友会より副会長の木田先生をはじめ工学部の手塚会長、生産工学部の渡辺先生また各学部より3名の教授のご臨席を賜りました。

今回は、まず工学部校友会の総会、桜工会総会そして集合写真撮影をして、懇親会へと進みました。懇親会では、各学部の現状を各学部の教授に報告頂きました。



工学部の長林教授には、3.11の震災後の学部の状況、郡山の状況、一番気になる学部の学生に対しての対応など事細かく報告を頂きました。また震災に対して学部で何が出来るか？また何をしなければ成らないかとのお話し頂きました。我々卒業生が、これから、何にたずさわれるか？考えなければ成らないと思いなおしました。

東日本震災で北海道にも材料などが入りづらい状態がかなり続きました。東北の粘り強さを持って、みんな元気を出して、これを持ち切り、元気いっぱい再会を誓い日本大学の絆を、そして日本人の絆を又深める一日となり、ご来賓の皆様方とともに二次会へと繰り出しました。

24年度は同窓会総会及び懇親会を夏頃に行いたいと思ひ役員会で相談致します。又、全道の各支部での支会

懇親会(ミニ同窓会)を予定し、それには北海道支部長ほか役員も出席となっています。尚、北海道支部では北海道にお帰りになった方、又、新卒生の参加を歓迎しています。

関東支部活動報告

土木17回卒 関東支部長 盛武 建二

平成23年度、関東支部の主な事業は以下のとおりです。

1. 23年3月 関東支部東京都校友会総会(東京)
2. 23年4月 工学部校友会通常総会(郡山)
3. 23年8月 関東支部役員会及び懇親会(東京)
4. 23年8月 工科系校友会連絡会支部長会(郡山)
5. 23年11月 日本大学全国校友大会(東京)
6. 23年11月 関東支部栃木県校友会総会(宇都宮)
7. 24年2月 関東支部神奈川県校友会総会(横浜)

23年8月に実施した関東支部役員会及び懇親会では、工学部校友会の手塚会長から支部交付金をいただきました。交付金を活用して、1都8県の校友会援助や総会への参加、正会員への勧誘活動を積極的に行っていきたいと考えていますので、関東地方に在住する工学部校友会の会員の方々の協力をお願いします。

震災に負けず頑張っている工学部学生を見ていると、きっと、工学部の新しい一ページが始まり、また、そうなることを心で祈っています。

関東支部栃木県校友会活動報告

土木36回卒 栃木県校友会事務局 篠崎 淳

さる平成23年11月26日、当校友会本年度総会及び懇親会を開催致しました。来賓に、福田富一栃木県知事日本大学校友会栃木県支部長、佐藤勉衆議院議員当校友会顧問、星野光利上三川町町長、池澤栃木桜工会会長、手塚工学部校友会会長、盛武関東支部長、又工学部より工学部次長、永嶋誠一先生をお迎えし、会員約60名の出席のもと盛大に開催致しました。

昨年は、東日本大震災があり、本県も北部・東部を中心に大きな被害を受けました。このような中、開催を逃した時期もありましたが、上三川町町長選において当校友会副会長であった星野光利先輩が当選したことや佐治則昭先輩が褒章を受章したりと明るい話題があったことから皆さんでいつものように相集おうとの呼びかけで例年以上にたくさんの方に御出席を頂きました。出席を頂けなかった校友の皆様も含め校友会活動に関心を持って頂いていることを実感できる絆を感じた総会・懇親会となりました。この場を借りてお礼申し上げます。有難うございました。



懇親会では、現役の応援団の先導で校歌の大合唱となり懐かしい時間となりました。

栃木県校友会では、毎年10月頃、土曜日夕方から総会及び懇親会を開催しております。土木工学科・建築学科に留まらず、全学科に輪を広め出席者を集めています。栃木県に戻ってこられた方、仕事で転勤されてきた方、新卒者の方、お気軽にご連絡ください。

最後になりましたが、紙面をお借りしまして東日本大震災で被害を受けられたすべての皆様にお見舞いを申し上げます。皆様の一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

北陸支部活動報告

土木22回卒 北陸支部長 岩名 涼

校友諸兄には、益々ご活躍のことと心よりお喜び申し上げます。

今年度の主な活動は、7月30日に第10回定時総会を開催しました。昨年は、新潟・福島豪雨の影響で新潟県のあちこちで洪水の災害に見舞われ、出席者が過去では一番多い60名程度予定しておりましたが、半減しての開催となりました。また、毎年恒例となっている父母会新潟支部の出席も出来なくなりました。この状況の中、本部から加藤木相談役および富山県の校友が馳せ参じてくれたことは、心より御礼申し上げます。

加藤木相談役のお話の中で、3月11日に発生した「東日本大震災」では学部および学生には大した影響はなく経緯したことなどの報告がありました。総会終了後の懇親会では、毎年のように盛り上がりましたが、前述

した父母会の参加できなかったことが残念でした。

また、10月1日には毎年恒例となりました「懇親ゴルフ大会」を阿賀高原ゴルフ場にて参加者が最も多い5組で行い、今年は特別参加した元野球部監督の金田先生が優勝しおおいに懇親を深めました。



その他、年に3回程度の役員会を開催し、校友会正会員の入会の報告等、活動を行っています。また、アカシア教育研究会総会および校友会本部主催の参加や、富山県校友会とのコミュニケーションをとりながら活動していきたいと思っています。

私は、今年度から北陸支部長を拝命されましたが、微力ながら北陸支部の校友との連携を中心に工学部の今後の発展のため、尽力したいと思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます、活動報告と致します。

東海支部活動報告

土木29回卒 東海支部会計監査 鈴木 太

校友の諸兄には、益々ご活躍のことと心よりお慶び申し上げます。

東海支部の平成23年度の活動としましては、平成23年7月22日にホテルキャッスルプラザにて支部総会を開催しました。校友40名の参加と、校友会からは手塚会長、大学からは五郎丸教授を来賓にお招きして、校友会の状況についてのご報告や、東日本大震災後の工学部の状況等についてのご報告を頂きました。その後、校友会功労賞表彰が執り行われ、東海支部の発展に尽力された下里正美様(土木19回卒)が功績を認められ表彰の栄誉に輝かれました。また役員改選により、東海支部長が川村智健先輩(土木15回卒)から市川三千男先輩(建築17回卒)へ交替となりました。前支部長の川村先輩には今まで東海支部活動に色々ご尽力頂き、本当に有難うございました。



そして、12月には支部年間最後の行事となる忘年会を行いました。毎年同じ顔ぶれの参加となっており、年々参加者の減少と高齢化に危惧しております。如何に若年層に参加してもらうかが今後の校友会発展の必須条件でありますので、この会報をご覧になった校友方は気軽に参加してみてください。

校友会での交流がみなさんの仕事や生活のお役に立てるよう、これからも校友会を盛り上げていきましょう。

東東海支部（静岡アカシア会）報告

土木28回卒 東東海支部長 大澤 俊幸

平成23年度支部総会は県東部地区総会を兼ねて平成23年9月16日（金）、手塚会長、学部より長林学務担当、浅里教授（建築）のご出席を頂き、東部地区の校友を中心に90余名の参加者で盛大に開催されました。特に、近年県内高校出身者が、毎年特待生に選ばれており、保護者のバックアップが高いことから、父母会静岡支部より成田顧問、森田支部長他3名の役員も御出席頂き、校友会と父母会の一層の連携を再確認いたしました。改めてここまで導いた成田顧問（前支部長）に感謝申し上げます。本年度は震災の影響と風評被害により母校への進学希望の激減が予想され大変心配しております。学部当局もそれなりの対策を考えていると思いますが、我支部も教員組織であるアカシア教育研究会と連携を密にして、学部よりお考えを示していただければ全面的に協力させていただきたく思っております。

四国支部活動報告

建築33回卒 四国支部事務局長 簀内 清二

平成23年度四国支部総会は、7月23日（土）に校友会本部より手塚会長をお迎えして、高松市内のホテルニューフロンティアに於いて開催しました。今回は出席された皆様より一言ずつのコメントを頂きました。

詳しいコメントの内容は、校友短信としてP22に掲載させて頂きましたので、そちらをご覧ください。

当日、六車支部長が挨拶の中で「地震、津波に加え最



も悩ましい原発の問題。更に政治の混迷。全く先（希望）の见えない時代です。このようなときこそ「会員相互の絆をより太く」が必要です。」と言われ、各県校友会総会も続いて各地で開催されています。これは毎号お知らせしておりますが、四国支部では毎月第1木曜日の18時30分より高松三越東側の居酒屋「はんぶん」に於いて「一木会」を毎月10名ほどの出席で行っています。校友であればどなたでも参加できますので、お気軽にお立ち寄りください。最後になりましたが、工学部校友会四国支部を設立し、初代支部長に就任され、その後も顧問として歴代支部長を支えてこられた谷久嘉典氏（土木8回卒）が昨年5月末に亡くなりました。ここに慎んでご報告させていただきます。

九州支部活動報告

建築29回卒 九州支部長 脇山 亨治

第31回日本大学工学部校友会九州支部総会を平成23年9月22日（木）に、福岡市博多区の「ハイアットリージェンシーホテル」にて開催いたしました。

今回は役員改選と言う事で、2期6年支部長をしていた55年建築卒の上村支部長に代わり私、56年建築卒の脇山亨治が新支部長として大役をおおせつかる事になりました。よって支部長と副支部長が交代しただけで、その他の変更は無しと言う事でした。



昨年はリーマンショック後、いまだ先行きが不透明な世の中に加えて3.11の「東日本大震災」で日本国中が大問題になっています。郡山が有る福島県では原発の影響も心配される中、九州支部のメンバーにも連絡が取れていない友人知人も居るようですし、ボランティアで九州より東北各地へ出向いている人も多くいます。何はともあれ一日も早い復興を願うばかりです。総会には校友会から手塚会長にお越しいただき現在の大学の近況や震災などの件もお聞かせいただき年間行事から会計報告など無事に承認されて懇親会へととなりました。今年の出席者は昨年とほぼ変わらず35名ほどでしたが佐賀県支部からと熊本からはH17年電気卒の林

加那子さんなど遠い県外からの参加者も居ました。今後はまず隣接県でもある佐賀県との交流を深め熊本県・大分県と輪を広げて総会参加人数を昔みたいに増やし、せめて50名ほどになればよいと思います。

ところで九州支部での活動内容ですが、毎月第3木曜日の18:30~20:30まで福岡市の中心、福岡市中央区天神の「平和楼」と言う店で「アカシア会」を行っております。参加は自由で毎月6~10名ほどで学生時代の思い出や様々な相談ごとなど和気藹々の2時間を過ごしています。転勤で福岡に着ている間に参加してくれる人もいます。九州に転勤や出張の方で毎月の第3木曜日に都合が付けば工学部校友の方はいつでも大歓迎ですので、声をかけていただくか、直接「平和楼天神」に来てください。

今年は残念ながら準備の都合などで、ここ数年続けていました柳川で北原白秋のふるさとでの「白秋祭川下り」は見送っております。

今年も予算を見ながら何か出来たら良いな!と考えております。

校友会手塚会長を始め事務局の渡澤さん・遠藤さんには準備の段階より書類他で大変お世話になりました。今後とも校友会発展の為、九州支部も頑張りたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

アカシア教育研究会

建築30回卒 北海道支部事務局長 行場 義修

工学部校友会・アカシア教育研究会北海道支部設立総会が11月19日(土)札幌市にて開催されました。学部より、長林教授(学務担当)、工学部校友会北海道支部より岡本顧問はじめ2名の役員に来賓としてご出席いただきました。会員も広い道内、足寄・函館等遠隔地から、さらにすでに現役を退いた大先輩、卒業したばかりのピカピカの新人と多数の校友が駆けつけ、「アカシアの団結」を見せてくれました。

総会の冒頭、アカシア教育研究会北海道支部長の高崎格氏が東日本大震災の影響を受けた母校「工学部」への支援を第一として会が設立されたと話され、来賓挨拶では長林教授が震災後の工学部の様子等をお話になり、入学式・開講式が遅れたが、現在は平常に授業等も行われており、放射能に関してもキャンパス内各箇所にて空間放射線量の常時測定並びに建築物の洗浄等で値も低く、一般生活には支障なく学生達も元気に過ごしているとのことでした。

その後、懇親会に移り笹原修児副支部長(平取高校事務長)の乾杯の音頭により和やかに会は進み、会員が学生時代の思い出を披露し合いながら、「我が故郷(ふる

さと)郡山・アカシアの森」での若き日々の話を聞きながら盛り上がりました。閉会后、会場を移し二次会も行われ、引き続き思い出話に花が咲きました。

今後も母校工学部への支援を第一として、北海道支部会員団結の下で活動していきたいと考えております。また、会の発足にあたり工学部校友会北海道支部の諸先輩より大きな激励をいただきましたことに対し厚く御礼申し上げます。

最後になりますが、かつては全国一の工業科教員数を誇っていた我が工学部も教員採用試験ではこの10年低迷をしてしまいました。教職課程教室とも連絡を密に取り合い、学生の希望が実現できるように我々も応援したいと思っております。



日本大学工学部校友会 アカシア教育研究会北海道支部役員

支部長	高崎 格	(建築14回・北海道札幌工業高等学校)
副支部長	亀井 雅秀	(機械27回・富良野市立樹海中学校)
副支部長	笹原 修児	(工化27回・北海道平取高等学校)
副支部長	太田 潤一	(電気34回・北海道札幌琴似工業高等学校)
事務局長	行場 義修	(建築30回・北海道帯広工業高等学校)
事務局次長	山田 恵一	(電気30回・専門学校 北日本自動車大学校)
事務局次長	藤田 浩司	(電気31回・栗山町立継立中学校)
事務局次長	池原 智宏	(建築37回・北海道札幌工業高等学校)

【消息】

・小酒正明氏(建築30回)は、平成22年4月1日付で金沢市立工業高校教頭に昇格されました。伝統校の教頭として御活躍が期待されています。

・仲野一樹氏(建築55回)は、平成23年4月1日付で静岡県高校教員に採用。県立浜松工高に赴任。県立最大規模と伝統を誇る学校でバスケット部監督にも就任。大きな期待がかかっています。





就職セミナー 未来を開く3日間(平成24年2月)

平成25年3月卒業・修了(現学部3年生・修士1年生)対象の就職セミナーが本学教室棟で2月7日から9日の3日間開催されました。参加企業数505社(企業担当者734名)、参加学生は3日間でのべ2,645人でありました。

企業の採用担当者との面接とあって、皆さん真剣でありました。昨年は参加企業数437社、参加学生はのべ2,096人であったことと比べれば圧倒的に本年度の就職に対する関心度は高いといえます。会員の皆様で求人希望する場合は工学部就職指導課(024-956-8644)までご一報下さい。

また、校友会では就職支援特別委員会(委員長:深野副会長)を設置し、学生の就職を支援しています。



母校を訪ねる会

平成23年10月23日(日)

北桜祭の日程に合わせて校友会では母校を訪ねる会を共催しています。昨年は9回、19回、29回、39回、49回の卒業生、約200人のご参加を頂きました。



電気電子56回卒
(美和電気工業株式会社)
井上 隆広



私は平成20年の3月に工学部を卒業し、美和電気工業(株)に入社しました。

現在は営業Grの一員として情報関係機器の販売や計装・制御システムの自動化や情報化を提案するといった仕事をしています。

美和電気工業(株)は1947年に設立し今年で65年目という歴史を持っています。【誠実】・【協調】・【信義】の3原則を社是とし、生まれ育った故郷の発展の為に貢献するという企業理念を掲げた会社です。

私がこの会社に入社した理由は、営業という仕事を通して様々な人と話ができること、また自分自身で選んだ製品や考えたアイデアを提案できるといったことができると思ったからです。

入社して半年はまずエンジニアとしてプログラミングの勉強をし、その後、半年は営業の先輩社員の仕事に同行しながらOJTという形で勉強をしていました。

2年目からは先輩社員の客先を引き継ぎ現在は一人で営業活動をしています。

始めたての頃は製品知識の無さにより客先からの問い合わせ等に苦戦することもありましたが、先輩社員の手助けを借りながら少しずつ仕事をこなしていき、製品知識や営業としてのスキルを身に付けていきました。現在ではお客様に製品について説明を行ったり、システムの打合せをこなせる程に成長し、日々やりがいを感じながら仕事をしています。

私が提案するシステムとは工場ラインの自動化や生産進捗の情報化を行う物等からDCSと呼ばれる工場プロセスの自動制御を行うような大型のシステムまで多岐にわたります。システムを導入することにより工場は生産性が向上し、より安全で高品質な製品が製造できるようになります。

最近では画像処理の分野にも力を入れ画像検査ソリューションの提案といった新たなJOBへもチャレンジを行っています。

入社して4年が経ちましたが今後は更に様々な客先や製品、システムを見たりしながら勉強をしていき提案できる製品やシステムの幅を広げ、お客様に信頼して頂ける営業マンを目指していきたいです。

第61回

北桜祭

平成23年10月22日(土)・23日(日)

東日本大震災の年に開催された学部祭ではあったが、2日間で7,370人の来場者があった。

“まけるな福島県”“がんばろう福島県”(22日2,485人、23日4,885人：学生課調べ)

校友会では北桜祭の実施に当たりいろいろな支援をしています(23ページ参照)



●工学部教員定年退職者（平成23年1月～12月）

建築学科 狩野勝重 平成23年3月31日付
 電気電子工学科 渡辺直隆 平成23年3月15日付
 生命応用化学科 齋藤烈 平成23年3月8日付
 鈴木敢 平成23年3月31日付
 吉川義雄 平成23年3月31日付
 情報工学科 阿部健一 平成23年3月31日付
 総合教育 井上友昭 平成23年3月31日付
 本郷建治 平成23年3月31日付

●学生募集

工学部では「一般入試・AO入試・校友子女入試」など様々な入学試験制度を設けております。

入学試験、手続きに関するお問い合わせ

TEL 024-956-8619 FAX 024-956-8888

E-mail nyushi@ao.ce.nihon-u.ac.jp

●サークル活動主な成績 平成23年度 課外活動成績優秀者一覧

団体名	大会名	結果・備考
剣道部	第59回東北学生剣道優勝大会	3位 第59回全日本学生剣道優勝大会出場（初戦敗退）
柔道部	全日本理工科学生優勝大会	優勝
ボクシング部	第39回東北地区大学ボクシングトーナメント大会	ライトウェルター級 1位中正大（211082）
洋弓部	第43回東北学生アーチェリー王座決定戦	3位 金子卓矢（204053）
	第43回東北学生アーチェリー個人選手権大会	3位 金子卓矢（204053） 第50回全日本アーチェリー個人選手権大会出場（60位）
陸上競技部	東北学生陸上競技対校選手権大会	男子やり投げ2位岩崎勝彦（213044）
	第64回県総合体育大会陸上競技	男子やり投げ4位岩崎勝彦（213044）
	北日本学生陸上競技対校選手権大会	男子やり投げ1位岩崎勝彦（213044） 第80回日本学生陸上競技対校選手権大会出場（28人中15位）
	第40回東北学生陸上競技選手権大会	男子やり投げ2位岩崎勝彦（213044）
吹奏楽部	第49回福島県吹奏楽コンクール 大学の部	銀賞

●工学部茶道同好会発足する

工学部校友会は、課外活動としてのクラブ創設の要望があれば、積極的にそれを支援する方針しておりますが、この度、その機会を初めて得ました。

それは、昨年の「母校を訪ねる会」における「校友茶会」へのお手伝い要員を在学生に募集しましたところ、11名の学生の応募がありました。

校友会は、当初、この応募学生に茶道の稽古を施し、来るべき「校友茶会」の運営要員にと計画していましたが、学生にはそれ以上に茶道への興味が強く、課外活動として同好会を立ち上げ、深く茶道を学びたい希望があったようです。

そこで、校友会は茶道の指導教授に表千家・佐藤宗珠先生を迎え、工学部旧茶道部で現校友会役員の2名のOBに指導をお願いし、更に、建築学科の市岡先生に同好会顧問を委嘱するなど、同好会として承認してもらう必要条件を整えて申請をさせました所、新年度から「茶道部同好会」として認可されることになりました。4月からは正式に同好会としての活動が始まります。さらに、10月の「母校を訪ねる会」の「校友茶会」においては、それまでに稽古で学んだお点前を卒業生の皆様にご披露し、一層の華を添えることとなります。どうぞお楽しみにお待ち下さい。



ご挨拶

日本大学工学部茶道同好会 主将 石井脩平
 昨年の「母校を訪ねる会」での茶席で、初めて茶道というものに触れました。茶道の先生方から工学部にもかつて茶道部があったことをお聞きし、ぜひ同好会を立ち上げてやってみたいと思い、部員を募集したところ11名集まりました。そして、4月から同好会として正式に認可されることとなりました。全員が茶道には全くの素人です。しかし、先生方のご指導のもとに、少しずつの成長を実感しながら日々稽古に勤しんでいます。その集大成として今年の茶席では、先輩方に未熟ながらもお手前をご披露したいと考えております。ご指導を宜しくお願いします。

●平成23年度日本大学工科系校友会連絡会・支部長会開催

平成23年8月27日(土)、平成23年度工科系校友会連絡会・支部長会が工学部にて開催されました。工科系校友会は、理工学部、工学部、生産工学部、薬学部の4学部校友会が連携し、工科系の特色を基盤とした校友会活動を展開しています。

連絡会及び支部長会は、各校友会の輪番制で開催され、29回目となる今回は工学部校友会が当番校となり実施されました。

会議は、各学部の運営状況報告、各支部近況報告等が行われ会議終了後、四学部の学部長、事務局長を交えた、懇親会が行われました。

また、会議前日には白河ゴルフ倶楽部にて恒例のゴルフコンペを行い、各学部校友会役員同士の親睦を深めました。



●就職支援サイトのお知らせ

校友への再就職支援事業の一環として、工科系三学部校友会(理工学部・生産工学部・工学部)との共同で就職支援サイトを立ち上げました。

就職支援サイトをご利用いただくことで

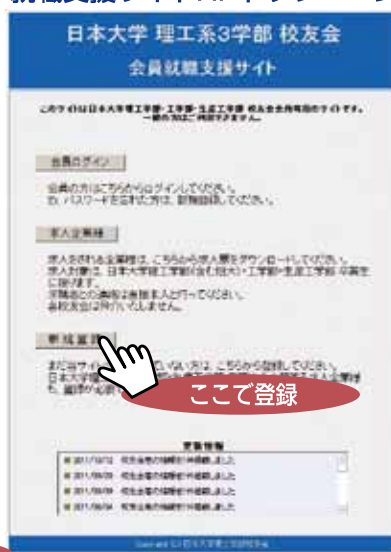
- 企業の皆様は求人情報を無料で掲載出来ます。
- 求職者の皆様は求人情報の閲覧、希望する企業への申込みが出来ます。

ご利用方法は企業・求職者ともに、就職支援サイトのトップ画面の「新規登録」からお手続きいただき、「ID・パスワード」をご取得下さい。

工学部校友会HPトップページ



就職支援サイトHPトップページ



※ご注意 ○ご登録の条件は「求人は校友のいる企業・求職は校友の方」に限らせていただきます。
○情報提供のみで仲介や斡旋はしておりません(職安法により)。

●三世代表彰の対象者募集

日本大学工学部及び校友会では、本年度から10月開催の「母校を訪ねる会懇親会」席上において、専門部及び第二工学部、工学部を三世代(祖父母、父母、孫)に渡って卒業した校友をお招きし、表彰することになりました。そこで下記の要領で対象者を募集致しますので、該当されると思われる方は、奮ってご応募下さい。

記

- 1.応募資格 祖父母、父母、孫の三世代に渡り第二工学部及び工学部を卒業した人
○直系にこだわりません。例:「母方の祖父・父・孫」などでも可。
○専門部卒は昭和24年3月、25年3月に卒業した人、第二工学部卒は昭和28年3月から昭和41年3月に卒業した人、工学部卒は昭和42年3月以降に卒業した人としてします。
昭和41年4月の学部名改称以前の工学部(現理工学部)の卒業生は含みません。
- 2.応募方法「はがき・FAX・ホームページのお問い合わせフォーム」にて受付
○いずれの方法も必ず「三人の氏名・卒業年・卒業学科・連絡先(住所・電話番号)」を明記して下さい。
書式は指定しません。
- 3.応募締切 平成24年9月15日(土)
- 4.その他 資格対象者には、後日ご案内書をお送り致します。

●校友支援事業

平成23年12月3日(土)に開催された「第54回日本大学工学部学術研究報告会」にて発表を行う校友に対して交通費の支援を行いました。また、工学研究科大学院生に対しても発表支援金を支給しました。

工学部学術研究報告会を隆盛させることを目的とした支援であります。校友の皆様にはこれを機に参加をご検討いただければと思います。尚、詳細については校友会ホームページをご覧ください。

●50周年記念誌販売中

校友会50年間の活動記録や、大学にまつわる出来事をふんだんに盛り込んだ一冊です。

価格は一冊1,500円(送料込み)です。

お申し込みは「はがき・FAX・ホームページ」にて受け付けております。「お名前、ご住所、必要冊数」をご記入の上お申し込み下さい。



●「アカシア文庫」開設

工学部校友の著作(書籍・音楽・映像)を募集します!

学生の校友会への関心度の向上と、校友の著作者発掘を図るべく、校友の著書(雑誌は除きます)・著作CD・DVDについて募集・掲載し、校友会のクリエイティブ部門を充実します。

■募集要項…できれば2部を工学部校友会事務局にお送り下さい。※送料につきましてはご負担願います。ご了承ください。

■詳細…1部は校友会事務局へ・1部は事務局閲覧コーナーへ設置し学生の目に触れるようにし閲覧していただきます。

■開設の狙い…学生の校友会への関心度の向上と、校友の著作者発掘を図ります。

■本件についてのお問い合わせはTEL(024-944-1327)または校友会ホームページの「お問い合わせフォーム」にて承っております。

●寄付者御芳名

三脇 康良 様(電気14回卒)

四国支部香川県校友会有志の皆様

上の個人または団体より東日本大震災に対する寄付金を頂きました。寄付金は「震災対策支援金」として学部採納致しました。心より御礼申し上げます。

四国支部からのメッセージ

徳島 福田 彰 電33
郡山のみなさん!心より応援しています。
徳島 藤原 賢治 建36
東北・福島・郡山復興を期待しています。
愛媛 永井 次郎 建14
毎日が金曜日、山登り、たまのゴルフです。
愛媛 井出 健司 土19
一生勉強、一生青春、ガンバレ日大工学部。
愛媛 青木 徹夫 土21
健康だけがとりえ、頑張っております。
愛媛 松本 修 電23
病気以来8年振りの校友会出席です。
愛媛 小倉 政敏 建24
東北のみなさん頑張って下さい。
長男が演歌で来年デビューします。よろしく。
高知 濱田 利男 機5
原爆、福島、郡山。気になります。ガンパロー。
高知 中山 昭彦 建26
10月に出張で福島に行く予定です。郡山に寄れたら幸いです。

高知 門田 吉史 土30
今年母校を訪ねる会で郡山へ行きます。
復興ガンパッテ。
香川 篠田 安弘 機8
仙人生活です。毎日2回のウォーキングが仕事です。
香川 佐々木 栄 機11
仏の教えに一步ずつ近づけるよう真宗生活中。
香川 松波 清武 土13
油絵と仕事をいつまでも続けたく思っています。
香川 西村 博光 建13
体調を崩しておりましたが楽しく生活中。
香川 鎌田 正昭 土14
68才、まだ第二の職場でがんばっています。
香川 北岡 保之 工14
これから大切に生き抜きます。
香川 六車 秀世 土16
自分流の毎日を過ごしています。元気です。
香川 高谷 具樹 土16
毎日気楽に趣味で遊んでいます。元気です。

香川 豊島 弘幹 建17
エブリーサンデーで頑張っています。
香川 土屋 博和 土19
毎年元気で、楽しい日々が過ごせるよう努力中。
香川 藤田 秀明 土20
定年後一年経過、自由となり次を目指しています。
香川 牧野 隆次 建22
4月より被災地に入り被害調査してきました。
皆様大変ですね。
香川 平山 正晴 土24
体を整え、元気でがんばっております。
香川 宮本 誠 土24
私も、なんとなく、がんばっています。
香川 渡辺 圭一郎 土26
社会に貢献できるよう鋭意努力しております。
香川 高岸 淳 土31
不景気に負けず奮闘中です。元気です。
香川 早谷川 悟 建31
仕事に地域活動に全力でがんばっています。

香川 数内 清二 建33
被災地復興拠点としての活躍を願っています。
香川 加戸 蔵資 電33
今年で50歳 明るく楽しく頑張ります。
香川 明石 真治 建34
地方から情報発信できるようがんばっています。
香川 松岡 慎哉 建37
いつも前向きに物事に取り組んでおります。
香川 福家 功 建38
福島の皆さんがんばってください。
香川 古川 哲行 建39
福島での日々は今も胸に新鮮に生きています。
香川 佐藤 公一 土45
大学時代の経験を活かしがんばっております。
香川 波間 祥悟 電59
常にフレッシュな気持ちでがんばっています。

●課外活動・北桜祭への支援

体育会、学術文化サークル連合所属のサークル、北桜祭実行委員会に支援を行いました。

課外活動支援金の贈呈

以下の15団体に課外活動支援金を贈呈しました。

●団体名(体育会)

硬式ソフトボール部 硬式庭球部 硬式野球部
柔道部 水泳部 卓球部 日本拳法部
ラグビー部 陸上競技部

●団体名(学文連)

囲碁将棋部 音楽研究会 美術部 写真部
滑空研究会 自動車部

全国大会出場の個人または団体への支援

以下の個人または団体へ全国大会出場の支援を行いました。

- ・日本拳法部 千田泰平
- ・剣道部

支援団体より感謝の言葉

山下隼人(電・3)卓球部会計

この度は校友会より課外活動支援金を援助していただきました。おかげさまで念願であったユニフォームを揃え、さらに練習備品を増やすことができました。今年は部員一同卓球に対してモチベーションを高く維持して練習に臨むことができ、その甲斐あってか東北学生リーグ大会では長い間目標としてきたリーグ3部に昇格することができました。また郡山選手権団体の部ではベスト8に入賞することができました。

来年度以降も技術の向上並びに大会入賞を目指して頑張っていきたいと思っております。

最後になりましたが、この度は本当にありがとうございました。



府中志乃(電・3)硬式野球部マネージャー

使い道…大会参加費の一部。
リーグ戦の大会参加費の一部として、南東北大学野球連盟で使用させて頂きました。ありがとうございました。



住所変更について

転居、転職の際は、校友会事務局までご一報下さい。
「電話・FAX・ホームページのお問い合わせフォーム」にて承っております。

北桜祭メインステージ設置の支援

前年度同様、北桜祭メインステージ設置の支援を行いました。



集会用パイプテントの寄贈

工学部に集会用パイプテント5張を寄贈、母校を訪ねる会懇親会にて目録の授与を行いました。北桜祭を始め様々な行事にご利用いただければと思います。



●工学部校友会賞に4名選ばれる

- 齋官 潤(情報・4) 体育会第42代委員長
勝山 茂亮(建築・4) 学文連第38代委員長
笹本 貴之(機械・4) 第60回北桜祭実行委員長
栗城 雄平(土木・4) 應援団第56代団長

日本大学工学部校友会会員通信費寄付者ご芳名 (敬称略 平成23年2月10日～平成24年1月31日)

●58回卒

土木 野 敦
建築 高橋 明寛
溢谷 瑛毅
機械 二瓶 慎也
電気電子 中澤 雅人
檜山 勇記
物質化学 山田 諭
情報 鈴木 隆利

●59回卒

土木 井上 篤史
小室 浩貴
田中 宏和
田村 健
福嶋 孝太
堀川 久仁彦
小林 和也
堀江 慎太郎
建築 秋保 康宏

遠藤 安泰
太田 成美
大平 旭洋
齋藤 隆文
永久保 宏紀
本田 優
松井 岬
荒川 宗久
石川 貴文
伊藤 寿徳

岩堀 翔大
上田 靖生
大沼 健
大橋 亮
国井 祐貴
鈴木 太三
瀬谷 亮哉
高田 義和
広瀬 陵丞
藤原 英徳

安田 成美
山寺 裕己
金子 栄一郎
鎌田 将矢
小柴 貴裕
佐久間 大樹
佐々木 大士
中島 香一郎
波間 祥悟
吉田 謙太

大貫 達哉
鈴木 康久
石川 雄大
石上 修平
神戸 俊樹
篠原 悠太
武田 遊
堀 篤和人
増子 崇寛
松原 和志

綿谷 知紀
木之内 健一
齊藤 誉人
黒沢 徹
大川 智
熊田 健吾
佐藤 友哉
佐藤 佑哉
関口 勇
田中 玄記

俵 深太
土屋 潤
福島 孝弘
松永 航
村山 陸
湯下 貴博

平成24年度 通常総会通知

本会会則第13条により、日本大学工学部校友会平成24年度通常総会を下記の通り開催いたします。皆様には年度始めにあたりご多忙中とは存じますが、万障お繰り合わせの上、多数ご出席くださいますよう、ご通知申し上げます。

記

1. 日 時／平成24年4月21日（土）13時より
2. 場 所／日本大学工学部50周年記念館
3. 議 題／（1）平成23年度会務報告および決算報告
（2）平成24年度事業計画および予算審議
（3）その他
4. 懇親会／総会終了後、大学関係者を迎えて懇親会を開催

第32回 母校を訪ねる会

日 時／平成24年10月14日(日)
場 所／日本大学工学部50周年記念館
(ハットNE)を予定
対 象／第10回卒業生（昭和37年3月卒業）
第20回卒業生（昭和47年3月卒業）
第30回卒業生（昭和57年3月卒業）
第40回卒業生（平成4年3月卒業）
第50回卒業生（平成14年3月卒業）

今回は左記の卒業生が母校訪問の主たる対象となりますが、対象年度に関わらず、ご来校ください。大きく発展・成長した母校をご覧いただき、恩師や旧友との再会に懐かしい一時をお過ごしください。この日は第62回北桜祭開催中です。

なお、クラス会を予定されている幹事の方は校友会にご一報頂ければ幸いです。

卒業後50年以上の校友全員も招待対象としています。どうぞ御来校下さい。

校友会報 第75号



発 行 者 日本大学工学部校友会
福島県郡山市田村町徳定字中河原1
郵便番号 963-1165
電話番号 024-944-1327
FAX番号 024-944-1327
E-mail : info@kouyu.ce.nihon-u.ac.jp
URL : http://www.nichidai-ce-koyukai.com

発 行 部 数 49,000部
発 行 日 平成24年3月1日
発行責任者 校友会会長 手塚 公敏
編集責任者 編集委員長 長澤 幸二